※令和４年度以降入学生用

学校番号	3036

令和５年度　理科

教科	理数	科目	文系生物	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校「生物基礎」（啓林館）						
副教材等	新課程版スクエア最新図説生物（第一学習社） 新課程セミナー生物基礎（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「基本は授業」
　授業中にしっかり説明を聞き、内容を理解すること。「自分で図を描けること」、「図の説明ができること」がその時間の目標。
・「復習の習慣を」
復習が大事。①教科書を読む、②自分で図を説明する、③問題集の問題を解く。短時間でよいのでその日の学習内容の復習を。毎回の積み重ねが基礎定着と応用問題を解く思考力につながる。
・後期からは１年次に学習した内容を復習しつつ、共通テストに向けた演習も授業に取り入れる。基本事項を２年で習得し、共通テスト問題演習に備えよう。

２　学習の到達目標

生物や生物現象について、
・教科書の内容・図を自分で説明できるまで理解する。
・授業プリントの演習問題、問題集の基本問題・応用問題が自力で解けるようになる。
・学習したことが、私たちの生活の何に活かされているのか理解する。
・「生物基礎」の教科書の内容を完全に理解し、３年次からの共通テスト対策につなげる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。 生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象の関係に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を常に意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	生物の多様性と生態系	植生と遷移 生態系とその保全	a: 気候と植生の関係、植生の遷移の過程を理解し、知識を身につけている。生態系内の物質循環、保全の方法について理解し、知識を身につけている。 b:各地の気候の特徴と各地域に分布する草本や樹木の特徴との関連性を考察し、表現することができる。生態系の破壊を人間生活と結び付けて考察し、それらを防ぐ保全の取り組みを適切に表現できる。 c:人間も生態系の一員であるという認識をもち、植生のなりたちや生態系の保全のための取り組みを意欲的に探究しようとする。	定期テスト 小テスト	定期テスト 観察課題プリント	学習状況 問題集ノート 実験観察プリント
後期	生物の特徴	遺伝子とそのはたらき	a:細胞の分化に伴う遺伝子の発現について理解し、知識を身に付けている。 b:分化した細胞の遺伝子発現について実験を通し考察し適切に表現できる。 c:細胞が未分化な状態から分化していく過程について関心をもち、意欲的に探究しようとする。	定期テスト 小テスト	定期テスト 実験プリント	学習状況 問題集ノート 実験プリント
	ヒトの体の調節	神経系と内分泌系の調節 免疫	a: 神経系と内分泌系の協力による恒常性の維持のしくみを理解し、知識を身に付けている。免疫の異常が引き起こす病気について理解し、知識を身に付けている。 b: 神経系や内分泌系の異常や、免疫システムの異常が体に与える影響を恒常性の維持のしくみと関連させて考察し、適切に表現できる。 c: 恒常性の維持のしくみや免疫のしくみと病気との関連に関心を持ち、意欲的に探究する。	定期テスト 小テスト	定期テスト 実験プリント	学習状況 問題集ノート 実験プリント 課題プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度